

石切り場（いしきりば）



いま にせんまんねんまえ おお かさんかつどう たいせき かるいし
今から約二千万年前、多くの火山活動によって堆積された軽石
ぎようかいがん ちかく へんどう りゆうき ろしゆつ やぶづかいし
凝灰岩が地殻の変動で隆起し、露出したものが藪塚石となりました。

この藪塚石は明治中頃から小規模に採掘していましたが、明治36年
やぶづかいし めいじなかごろ しょうきぼ さいくつ めいじ ねん
より藪塚石材株式会社が創立され、盛んになりました。質はやわらか
やぶづかせきざいかぶしきがいしや そうりつ さかん しつ
く細工もしやすく、価格も安かったので建築物の土台や塀、熱に
さいく かかく やす けんちくぶつ どだい へい ねつ
極めて強かったのでカマドとして発売されました。

たいしようにねん とうぶてつどう ふせつ かんとう ながのけん いた
大正二年に東武鉄道が敷設されると、関東から長野県に至るまで
やぶづかいし な ひろ さいせいき いし きしよくにん たけん うつ
藪塚石の名は広まりました。最盛期には石切り職人が他県からも移り
す かず にん にん
住み、その数も1000人～2000人もいたといわれています。

しかし、藪塚石の最大の欠点は水に弱く、中に小石がある事、層に
やぶづかいし さいだい けつてん みず よわ なか こいし こと そう
割れ目が多い事などで、同質の大谷石と比べ多くの人件費がかかりま
われめ おお こと どうしつ おおやし くら おお じんけんひ
した。

そのため、現在各所にこの様な大きな採掘跡を残して昭和三十年頃
げんざい げんざい かくしよ お お さいくつあと のこ しょうわ ねんごろ
に閉山せざるをえなくなったのです。（現在、立入禁止です）

